

開催館名 下関市立しものせき水族館

企画展名 アシカの明日展

開催期間：2025年8月1日（金）～2026年1月7日（水）



【企画展の内容・目的】

- 海棲哺乳類であるアシカを切り口とし、アシカの特徴や生態を知りながら海洋生物や海洋環境に対する興味を誘起させた上で、日本の海にもアシカが棲んでいることを知っていただく。そして、人の生活がアシカに与えている影響（海洋ゴミ（ロープ）に絡まったキタオットセイなど）と、アシカが人の生活に与えている影響（トドによる漁業被害）の現状を伝え、海でつながるアシカと人の暮らしを知ることで、身近な海に対する保全意識を持つ機会へとつなげる。併せて、海洋資源は人間だけが享受できるものではなく、他の生物と共有し、共存していくという気持ちを芽生えさせる。
- 関連事業として、海棲哺乳類（イルカ、アシカ、アザラシ、スナメリ）の給餌解説やプレゼンテーションなどのイベントにて、生き物を目にしながら海洋環境につながる内容を解説することで、海の学びや海を守るという意識啓発につなげる。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2025年8月1日（金）～2026年1月7日（水）
- 開催場所：下関市立しものせき水族館 1F イベントホール
- 入場者数： 237,962 人



下関市立しものせき水族館 外観



企画展会場 入口



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

登場人物（アシカについて詳しく知らない）がアシカに転生し、アシカの世界に入ることと特徴や生態、人との関係を知っていくストーリーで展開。段階的に理解を深め、海の学び、海洋環境を考える機会へとつなげる流れとした。

導入部分では、海と陸を生活の場とする海棲哺乳類「アシカ」の特徴を知り、人と同じ哺乳類でありながら海で生活する動物への興味を誘起させる内容とした。展示物としては、イラストと解説を主に、触ることができる実物の毛や、カリフォルニアアシカのオスの実物大模型を展示し、体の特徴などをリアルに感じる事ができるものとした。



アシカから海の学びにつなげるためには、アシカという動物を区別し、認識することが重要なため、一般的に混同されることが多いアシカとアザラシを区別する内容の展示を行った。体の特徴の違いに関するクイズや、泳ぎ方の違いを知るための動かす模型、触ることができるヒゲの実物など、ハンズオンを中心とした展示とした。



アシカの種類であり、令和7年8月1日、下関市立しものせき水族館に新たにオープンしたアシカ展示繁殖施設「ひれあしビーチ」にて展示している「カリフォルニアアシカ」を取り上げ、アシカに概ね共通している雌雄の違いやそれぞれの特徴、ハーレムを形成する繁殖生態などを紹介した。オスの頭骨の実物標本や授乳中の親子の実物大模型を展示し、海辺を繁殖地とするアシカの社会を伝える内容とした。この展示の流れにより、アシカへの理解を深め、興味を高めることを狙いとした。



アシカへの興味を高めた上で、日本近海にもアシカの仲間が生息していることを伝え、「海でつながるアシカとヒトの暮らし」として日本の海で起きているアシカと人双方の影響をについて解説した。ロープが絡まり水族館に救護されたキタオットセイの映像、トドに食い荒らされた漁獲物の写真、ニホンアシカが捕獲されている時の写真や貴重な標本の写真など、リアルな資料を展示することにより、身近な海に対する思いを喚起し、海洋環境や海の生き物を守るという意識啓発につなげた。

【来館者の声】

- 海の生き物たちが共生できるようにキレイな海をたもつことが大切だと考える。
- 子供たちが海についてとても興味を持ってくれました。違う目線で魚や海の生物を見てくれると思います。
- 遊びに行くことはあっても深く知ろうとは中々思わなかったもので、今回から海のゴミを積極的に拾ったりして、環境を守ろうと思いました。
- アシカのことはほぼ知らなかったもので、すべて初めて知ることばかりだった。そこから海を大切にしないといけないと感じた。

2. 関連事業の内容

■アシカトーク

【開催日時】 2025年8月1日（金）～2026年1月7日（水）
10：30～10：40、16：30～16：40
又は11：30～11：40、15：15～15：25（計320回）

【開催場所】 下関市立しものせき水族館2階 ひれあしビーチ

【参加者数】 延べ約16,000人

【実施内容・目的】

- 給餌に合わせてスタッフが解説するイベントで、参加者がカリフォルニアアシカの姿を間近に見ながら、特徴や生態を知ることにより、アシカへの関心を高めるとともに海洋生物への興味を誘起する内容で行った。その中では、大きな声で鳴くオスのアシカを間近で観察する体験を通じ、単なる知識の習得ではなく「海洋生物の存在感や生命力」を体感していただけるよう工夫した。後半には、かつて日本近海に生息していたカリフォルニアアシカの近縁種のニホンアシカについて、人の乱獲などの原因により2025年に絶滅宣言される予定となっていることを紹介し、海でつながる人と海洋生物への思いを啓発することにより、海を守る必要性やどのようなアクションを起こすべきかなどを考えるきっかけとなることを目指した。
- イベントでは、「楽しさの中に学びがある」ということを意識し、子どもから大人まで幅広い世代が思い出に残ることで、海の学びや海洋環境保全の意識が長く継続するような内容とした。



開催場所の全景の様子



参加者の様子

実際に観覧者の目の前（数メートル）の距離でカリフォルニアアシカが見える形で給餌解説を行なったことで、図表や映像では得られない生き物の存在感や実物感を体感していただくことができ、海洋生物の魅力を強く届けることができた。特にオスのアシカの鳴き声を間近で聞いていただく部分では参加者の驚きの表情が見て取れ、強く印象に残せた感触があった。

単にスタッフが話しをするだけでは参加者の記憶に残りにくいところも、実際の生き物を用いて目の前で解説することで耳を傾けていただくことができた。

給餌解説に用いるカリフォルニアアシカをきっかけに、日本の身近な海に生息していたニホンアシカの話をしたことで、今まで知らなかったことを知るとともに、現実味を感じていただけで、身近な海を大切にしなければならないという気持ちを芽生えさせることができた。

【来館者の声】

○ニホンアシカが絶滅種に指定されようとしていることを知り人間の行いが海の生物の生活に密接に関係しているのだと感じた。そのため自分の行動が海洋生物達にどのような影響を与えるのか考えながら日々生活していきたい。また身近な人々に今日学んだことを伝え意識を広げていきたい。

○動物の可愛さやかっこよさだけでなく、さまざまな習性や生き方を知れるのがとてもいい水族館だなと思います。

○実際に海に入ることあんまりありませんが、そこで生活し家族を持ち子育てするというのは私たちと同じだと思います。そういう動物たちが安心して暮らせる海になってほしいと感じました。

■アザラシ&スナメリトーク

【開催日時】 2025年8月1日（金）～2026年1月7日（水）

12：30～12：40、15：00～15：10

又は13：00～13：10、15：00～15：10

又は12：30～12：40、16：30～16：40

又は13：00～13：10、16：30～16：40（計320回）

【開催場所】 下関市立しものせき水族館2階 アザラシプール

【参加者数】 延べ約16,000人

【実施内容・目的】

- 給餌に合わせてスタッフが解説するイベントで、参加者がゴマフアザラシの姿を間近に見ながら、特徴や生態を知ることにより、アザラシへの関心を高めるとともに海洋生物への興味を誘起する内容で行った。その中では、水中と陸上を生活の場とする姿を間近で観察することを通じ、単なる知識の習得ではなく「海洋生物としての生き様」を体感していただけるよう工夫した。後半には、本来流氷とともに日本近海に來遊してくるゴマフアザラシが、近年の温暖化により流氷が減り、北海道周辺に定住する数が増えていることを紹介し、海洋生物の暮らしが変わっていると知ることから海洋環境への思いを啓発することにより、海を守る必要性やどのようなアクションを起こすべきかなどを考えるきっかけとなることを目指した。
- イベントでは、「楽しさの中に学びがある」ということを意識し、子どもから大人まで幅広い世代が思い出に残ることで、海の学びや海洋環境保全の意識が長く継続するような内容とした。



水中と陸上を行き来するアザラシの行動を間近で観察しながら解説を行なったことで、海棲哺乳類が海と陸をどのように使い分けて生活しているのかを実感していただくことができた。特に泳ぎ方や摂餌の動きを見ていただく場面では、来館者が『海で生きるための体のつくりや行動』を理解するきっかけとなったと感じている。また、給餌を通じて歯の形や食べ方の特徴に触れることで、同じ海棲哺乳類であるアシカやイルカとの違いを比較しながら学んでいただくことができた。

その流れで、近年アザラシ類が海洋環境の変化によって生息域や餌資源に影響を受けている現状に言及したことで、単にかわいい生き物として捉えるのではなく、身近な海のことを考えるきっかけを提供し、海洋環境保全の大切さを啓発することにつながったと考える。

【来館者の声】

- アシカとアザラシの違いについて学べた。
- 生物の多様性、進化の不思議さを感じました。
- 環境問題について考えるきっかけになりました。アザラシの生活場所を守らないといけないと思いました。

■イルカ&アシカのプレゼンテーション

【開催日時】 2025年8月1日（金）～2026年1月7日（水）

11:00～11:20、13:00～13:20、15:00～15:20

又は 11:00～11:20、12:30～12:50、14:00～14:20
15:00～15:20

又は 10:30～10:50、13:00～13:20、15:30～15:50

又は 10:30～10:50、12:30～12:50、14:00～14:20
15:30～15:50（計524回）

【開催場所】 下関市立しものせき水族館 2階 イルカスタジアム

【参加者数】 延べ約270,000人

【実施内容・目的】

- 動物が持つ能力や行動を実際にご覧いただきながら解説を行うイベントで、単なる娯楽にとどまらず、海棲哺乳類の生態や身体的特徴への理解を深めることを目標とした。イルカの俊敏な泳ぎや跳躍、アシカの器用な身体操作などを紹介することで、それぞれの動物が海という環境で生き抜くために発達させた能力を学んでいただく機会とした。
- 子どもから大人まで幅広い来館者が楽しみながら学べる体験とすることを目標とした。特に、イルカやアシカの行動を実際に目の前で見ることで「海の生き物の能力の高さ」や「自然環境に適応した生態」を直感的に理解することができ、海洋生物への興味関心を高めることを期待した。



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

俊敏な泳ぎやジャンプ、器用な身体操作など、イルカやアシカが持つ本来の能力を紹介しながら解説を行うことで、海という環境で生き抜くための身体的特徴や行動の意味を理解していただくことができた。単なるエンターテインメントではなく、生き物の行動を通じて『なぜその能力が必要なのか』『どのように海の環境と結びついているのか』を伝えることで、海洋生物の生態や適応を学ぶきっかけを提供した。また、日常的なトレーニングを通じた人と動物の信頼関係を紹介することで、人間と海洋生物との関わりや、飼育下における動物福祉について考えていただく機会ともなった。

【来館者の声】

- 海の動物たちの生き生きした姿からダイナミックさを感じました。
- 海の生き物は大切な存在だと思いました。
- イルカの鼻は頭の上にあるのを実際に見ることができた。

■アシカに挑戦！大声コンテスト！

【開催日時】2025年11月1日（土）13：30～14：10

【開催場所】下関市立しものせき水族館2階 イルカスタジアム

【参加者数】15人

【実施内容・目的】

- 来館者が実際にカリフォルニアアシカの発する声を聞き、自身の声量と比較する体験を通じて、海棲哺乳類が持つ能力や身体的特徴への理解を深めることを目的として実施した。飼育員が解説を行いながら進行することで、単なる参加型イベントにとどまらず、アシカが“海”という環境に適応して発達させてきた能力について学べる機会とした。
- かつて日本の海にも“ニホンアシカ”が生息していたものの、近年は発見がなく絶滅が危惧されていることを紹介し、海の生き物とその生息環境を守る必要性を考えるきっかけとなるよう構成した。これらを通じて、アシカへの興味を喚起し、海洋環境の保全意識を育むことを狙いとした。



本活動では、来館者が自ら声を出し、その声量をアシカの声と比較する体験を通じて、海棲哺乳類が持つ能力をリアルに実感できる学習機会を提供した。体験を行うことで、来館者はアシカの発声の大きさに驚きや興味を抱き、その後のスタッフの解説にも自然と意識が向く流れをつくった。

解説では、アシカが仲間とのコミュニケーションや繁殖行動の中で声を使うことを紹介し、海で生きる動物の特徴を理解しやすい内容とした。また、かつて日本の海にもニホンアシカが生息していたことに触れ、海の生き物とその環境を守る大切さを簡潔に伝えた。

体験と解説を組み合わせた構成により、来館者は楽しみながらアシカへの興味を深め、海に暮らす生き物の能力や環境について学ぶ機会となった。

【来館者の声】

○ニホンアシカがいなくなってしまった事、それを他の生き物もふくめて少しでも止めれたら良いなと思いました。

○ゴミをすてたりしないように海の生物がすごしやすい環境を作りたいです。

○いつもたくさんいそうないきものが実はぜつめつしそうだったりもっと大切にしなきゃと思った。

○汚れや公害のない動物や魚が豊かにくらせる海をつくるには何をすればよいか改めて考えるきっかけになった。

■第2回 アシカに挑戦！大声コンテスト！

【開催日時】2025年12月27日（土）14：00～14：40

【開催場所】下関市立しものせき水族館2階 イルカスタジアム

【参加者数】10人

【実施内容・目的】

- 来館者が実際にカリフォルニアアシカの発する声を聞き、自身の声量と比較する体験を通じて、海棲哺乳類が持つ能力や身体的特徴への理解を深めることを目的として実施した。飼育員が解説を行いながら進行することで、単なる参加型イベントにとどまらず、アシカが“海”という環境に適応して発達させてきた能力について学べる機会とした。
- 第1回「アシカに挑戦！大声コンテスト」では、短期間で定員に達するなど高い参加意欲が見られ、アシカの鳴き声を体感する体験型イベントが来館者の興味を引く有効な手法であることが確認できた。そこで、こうした関心を「海の学び」へと発展させるため、海洋ごみによって被害を受けたアシカの写真パネルを用い、日本から出たごみが海流によってカリフォルニアアシカの生息地にまで届く可能性があることを紹介し、海を通じてアシカと人間の生活がつながっていることを伝えた。身近な行動が遠くの海や生き物に影響を与え得ることを示すことで、海洋環境への関心を高めることを狙いとした。



※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



本活動では、来館者が自ら声を出し、その声量をアシカの声と比較する体験を通じて、海棲哺乳類が持つ能力の高さを実感できる学習機会を提供した。体験を行うことで、来館者はアシカの発声能力に驚きや興味を抱き、その後の飼育員の解説にも自然と意識が向く流れをつくった。

解説では、アシカが仲間とのコミュニケーションや繁殖行動の中で声を使うことを紹介し、海で生きる動物の特徴を理解しやすい内容とした。

また、海洋ゴミの話題として、海岸でよく見られるペットボトルを例に挙げ、そのキャップを溶かしてアシカの形に加工した参加賞を配布した。参加賞をきっかけに、日常生活から出たゴミが海へ流れ出し、遠く離れた海の生き物にも影響を与える可能性があることを伝え、身近な問題として海洋ゴミを考える機会とした。

体験と解説、さらに参加賞を通じた学びを組み合わせた構成により、来館者は楽しみながらアシカへの興味を深め、身近な生活と海の生き物とのつながりに気づく「海の学び」へとつながった。本イベントは、体験を入口として海洋生物理解と環境意識の醸成に寄与する有効な成果を得ることができた。

【来館者の声】

- ゴミを海に捨てない！！アシカ、大事！！
- ゴミに気をつけたいと思います。
- アシカはゴミを海に捨ててしまうと、ケガをしたり害があることがわかったし、海を大切にしようと思った。

【事業全体のまとめ】

今回製作した成熟オス・授乳中のメス・仔獣を組み合わせたアシカの実寸大模型を通じて、来館者にアシカの体格差や成長段階、親子の関係性を具体的に伝え、海で生きる動物の特徴を体感的に学ぶ「海の学び」の機会を提供することができた。

来館者からは「想像より大きかった」といった声が寄せられ、体験を通じて海の生き物への関心が高まった様子がうかがえた。企画展内では、かつて日本近海に生息していたニホンアシカにも触れ、人と海、海洋生物との関わりが身近な海にもあったことを紹介した。あわせて、海洋ゴミがアシカに及ぼす影響についても取り上げ、関連事業の中では、日常生活から生じたゴミが、海を通じて遠くの生き物や環境に影響を与える可能性があることを伝えた。

また、関連事業として実施した海棲哺乳類（イルカ、アシカ、アザラシ、スナメリ）の給餌解説やプレゼンテーションでは、生き物の行動を目にしながら、海という環境で生きるための能力や適応を理解する機会を提供した。これらの関連イベントと、アシカの特徴や生態を体系的に学べる企画展が連動することで、楽しさの中に自然な学びが生まれ、海洋生物や海洋環境を自分ごととして捉える姿勢の醸成に寄与した。

以上の取り組みにより、助成金を活用した企画展は、来館者の海洋生物や海洋環境への理解と関心を高める「海の学び」を促す場となった。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. アクアワールド茨城県大洗水族館	キタオットセイ救護映像の借用
2. アクアマリンふくしま	キタオットセイ救護写真の借用
3. 国立研究開発法人水産研究・教育機構	トド食害に関する写真の借用
4. 島根県竹島資料室	ニホンアシカ猟写真の借用
5. 島根県立三瓶自然館	ニホンアシカ剥製写真の借用
6. サンシャイン水族館	仔アシカの鳴き声映像の借用

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 下関市 市報 7月号～11月号	毎月月末に配布
2. 山口新聞	7月11日 朝刊
3. カモンFM	ラジオ 市報しものせき通信
4. YAB 山口朝日放送	7月31日夕方ニュース
5. RKB 毎日放送	ハカタの王様
6. KRY 山口放送	しものせき 21
7. 北九州市 市政だより	10月15日発行
8. 福岡子ども新聞北九州市 市政だより	10月31日発行
9. 月刊アクアライフ	12月11日発売号

以上